

1 学校教育目標
「自ら学び 思いやりを持ったたくましい子どもの育成」 校訓：精いっぱい



2 学校経営ビジョン
<p>【めざす学校像】 ・地域・保護者に信頼される学校 ・一人一人が生き生きとした学校 ・規律のある学校</p> <p>【めざす教職員像】 ・教育公務員としての自覚を有し、児童、保護者、地域社会から信頼される教師 ・日々新たに研修、研鑽に励む教師 ・一人ひとりの子どもを愛し、教育に使命感を持つ教師 ・健康保持に率先して努め、心身ともに健全ではつらつとした教師</p> <p>【めざす子ども像】 ・自ら進んで学ぶ子(勉強いっぱい)・思いやりがある子(やさしい)・健康でたくましい子(元気いっぱい)</p>



3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>(1) 「自ら学ぶ力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己教育力の育成と個性の尊重 学力向上方策の推進 <p>(2) 「心に響く教育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性を培う心の教育 人権・同和教育、特別支援教育の推進と意義の高揚 <p>(3) 「一輪車教育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教育の推進と体力向上 安全教育の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 職員、保護者、児童、地域へのアンケート結果では、いずれの対象においても「よくできる」の割合が増加し、「あまりできていない」が減少している。特に、保護者のアンケート回収率は92%を超え、「よく」「だいたいできています」を併せると89%(前年度75%)という数字であった。本校の教育に対する関心の高さと信頼度を顕著に表している。 職員アンケート結果から、すべての職員が学校目標達成のために、担当した職務に責任を持って意欲的に取り組んだ姿がうかがい知れる。その姿と連携するように、児童の生活や学習に対する意識の変化も見られるようになった。この好循環を継続していくことは大きな課題である。 本校の特色である「一輪車教育」の更なる充実も図らねばならない。今年度22回を迎える「一輪ピクニック」には、まだ工夫の余地があり、技能修得の場として「一輪車教室」等の企画・運営にも着手しなければならない。 学力向上については、現状に甘んずることなく各種検査結果を精査して、全職員の共通理解のもと校内研究と連携させながら取組の充実を図っていく必要がある。



5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	●学校経営方針	学校教育目標、校訓及び重点項目の周知徹底	教職員、児童、保護者、地域の方々に周知し、認知率を教職員は100%、児童は90%、その他は85%以上にする。	A 認知率は、地域以外は具体的目標数値までは達成できなかったが、各評価者の評価は「A」(80%以上)であった。	・教職員には職員会議や打合せの時間を使い、児童には全校朝会等で説明した。 ・保護者へは、校長の学校便りや各担任からの学級通信、懇談会で周知した。 ・地域の方には、学校便りや学校ホームページ、育友会合等で説明した。	・昨年に比べて、地域の方々・児童・保護者の認知率が上がった。 ・学校便りなどの印刷物やホームページ、口頭等で機会あることに繰り返し周知を図っていった。
	◎開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・学校便り(波小だより)を月2回以上発行し、校区内の家庭へも配布する。 ・ホームページの更新率を随時30%以上にする。 ・保護者や地域の方々へ毎月の授業参観や学校行事等の案内及び周知を図り、保護者の参加率を75%以上、地域住民の来校を100名以上にする。	A ・学校からの情報発信は目標数値を達成。特に、ホームページはほぼ毎日更新した。(更新率60%以上) ・学校行事への保護者の参加率及び地域住民の来校の目標数値も達成した。	・学校便り、学級通信、校長掲示板を定期的に発行し、ホームページ等で随時更新することにより、情報発信をした。 ・授業参観や学校行事等の参加を積極的に呼びかけたり、学校に気軽に来校できる雰囲気作りに努めた。	・校区内の全世帯へ学校便りを配布することにより、地域からの評価点(「学校の様子がよくわかる」)が昨年より上がった。 ・学校便りやホームページに児童の学校生活の様子が分かりやすく掲載することで、家庭での親子の会話のきっかけともしていきたい。
	◎危機管理体制の整備	危機管理体制の整備・改善	・危機管理マニュアルをもとに非常時の校内組織と連絡経路の共通理解を図る。 ・安全点検による改善策の充実を図る。 ・より実践的な避難訓練を実施し、全児童が安全かつ速やかに避難できるようにする。 ・AED研修会に全職員参加する。	A 具体的目標はすべて達成できた。	・本校の実態に応じた危機管理マニュアルを作成した。 ・避難経路、連絡経路図を各学級及び職員室の目に付きやすい場所に常時掲示した。 ・毎月、安全点検を実施し、随時不良箇所についての的確な改善を図った。 ・警察署等関係機関との連携を密にした。	・スクールガードリーダー及び警察、そして子ども見守り隊の方々の協力で、実践的な避難訓練や登下校時の安全チェックを行うことができた。 ・保護者に対するAED研修会の機会をぜひ設けたい。
	○教職員の資質向上	学級経営に資する学習指導力の向上	・算数科を中心に授業研究を進め、担任全員が年1回の全校授業研究会を実施する。 ・全職員が、センター講座、県内外の研究発表会等に積極的に参加し、出張報告会で報告する。	A 具体的目標はすべて達成できた。	・講師の指導助言を得て、「分かる授業」への創意工夫と客観的な自己評価をした。 ・各種研究会の案内を随時全職員に周知し、参加を積極的に勧めた。 ・よりより学級づくりのためにQUアンケートを実施した。	・QUアンケート実施により、よりよい学級経営に向けての具体的取組がなされた。児童による教師の評価3項目いずれも、昨年度より上がっており、児童の職員への高い信頼感もあって、学級経営については学力向上につながったとも思える。 ・今後も「全職員一致団結」を合い言葉に、情報を共有しながら指導力の向上に努めていく。

	○校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> 青嶺中学校区教職員連絡協議会の実施 幼、保、小連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 北部4校の連絡協議会を年に3回以上設定し、各校の取組について共通理解を図り、また職員との交流を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 北部連絡協議会の開催とともに各部会での研修会も実施できた。 夏季休業中には、全職員が保育園または幼稚園で保育参観を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校の校内研究、学力向上方策について、協議会等を通じて、広く情報を収集した。 幼、保、小連絡協議会及び相互授業参観を行い、情報交換や相互理解を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 北部の各保育園や幼稚園・小中学校と学校便りを收受したり授業参観等の案内を出し合うことで、各学校の様子や行事がよくわかった。 中学校との連携(中学校からの乗り入れ授業等)を強化したい。
	○家庭、地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 育友会との連携強化 地域や公民館、各種団体との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 年7回の育友会評議員会を開催し、育友会行事の充実を図る。 各種行事への保護者の参加率を70%以上にする。 様々な会合の中で情報交換を積極的に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の結果、職員・保護者・地域ともに、連携については高い評価だった。 学校行事への保護者の参加率は、70%を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年分会行事や専門部活動を充実し、保護者間の連携を密にした。 案内状等を早めに作成配布し、保護者の参加計画を立てやすくした。 学校の現状を様々な方法で発信していった。 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会、地域の協力により「子ども110番の家」の幟旗が新しく作成できた。 保護者並びに役員の減少による、各行事における仕事の負担減と役割分担等の工夫が課題である。
教育活動	●学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の形成と算数科における学力向上と基礎・基本の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭での学習習慣を身につけさせる。 CRT検査において「数学的な考え方」「表現・処理」「知識・理解」の3つの観点項目が、どの学年も全国通過率100を超える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> CRT検査結果で、1年の「数学的考え方」と3年の「数学的考え方」「知識・理解」が全国より少し下回っていたが、他の学年は上回っていたことと、学力向上や学習習慣への取組についての評価が保護者・児童・地域・職員ともに高い評価だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校では「チャイム席」「次の時間の準備」、家庭では「テレビなし」「机の上で」「学年に応じた時間で」学習するように声をかけた。 家庭へお願いしたりした。 校内研究の計画に沿って効果的な「練りあい活動」「自己評価活動」の研究をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習習慣の定着が見られ、話を聞くことや発表することへの向上が見られた。 アンケート結果から、家庭でテレビを見ながら勉強「テレビ・ゲームの時間が長い」ことが課題。重点改善項目の一つとして、学校・家庭で連携して取り組んでいく必要がある。
	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回以上、全学級で保護者が参加する授業公開を行う。 いのちの教育指導資料や心のノートを積極的に活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 具体的目標はすべて達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 週1時間の道徳の授業を確保した。 いのちの教育指導資料を活用し、命に関わる内容の授業を展開した。 年間計画に沿って心のノートを活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月に「ふれあい道徳」授業公開を実施。多くの保護者・地域の方々の参観があった。授業後のアンケートでも、本校の「心の教育」への取組について高い評価を受けた。 今後さらなる授業の充実のために、教材や教具等、学校保管(ファイル化等)にして全職員が共有できるようにしていきたい。
	●健康・体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 一輪車教育の推進 食育の推進 性教育の推進 歯と口の健康づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 一輪車を通して、平衡感覚を身につけると同時に体力の向上を図る。 集団の規律ある行動を通して、集団への認識を深めると共に、自立・共同の態度を養う。 年間を通して、食育指導を行う。 年間を通して、性教育の指導を行う。 う歯の罹患率を減少させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 具体的目標はすべて達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週木曜日、朝の時間を活用した「健康タイム」や年に数回一輪車教室を設定した。 食育担当や養護教諭との連携を図った食育指導を行った。 学年に応じて、性教育年間指導計画を作成した。 給食後に「歯磨き推進曲」をかけ、意識の定着と継続を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月の一輪ピック、9月の体育大会を中心に、全校で一輪車の練習に励み、すばらしい技を披露。参観者から多くの拍手をいただいた。また、2月には技術指導を受け、新しい技にも挑戦・取得できた。 11月に生活習慣アンケートを実施。この結果をもとに、校長や養護教諭を中心に、保護者・児童への健康についての情報発信(おたよりや講話等)と具体的指導がなされた。同じ生活習慣アンケートを継続的にとっていき、成果の実態把握や今後の取組への参考としていきたい。
	◎特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもにニーズに応える教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学習面、行動面における要配慮児童を把握し、支援方法を考える。スクールアドバイザー、関係機関とも連携を取りながら、よりよい方法を考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で全児童一人一人への共通理解を図り、早期発見・早期対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども支援委員会、協議会を月1回確保し、児童の実態把握に努めた。 学期末に「個別の指導計画」見直しの研修会を開いた。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールアドバイザーに加えて、スクールヘルスリーダー、スクールソーシャルワーカーの支援・指導を受けることができ、児童・保護者等への対応や支援についての理解が深まった。 保育園、中学校との連携も強化し、よりよいつなぎをしていきたい。

	◎ふるさと学習	郷土理解	<ul style="list-style-type: none"> ・波多津町の歴史、風習、人物、自然、産業、方言について理解を深めさせ、ふるさとに対する愛着心を育てる。 ・ふるさとに興味・関心を持つ児童を70%以上にする。 	A	<p>全学年が、地域に積極的に出かけ、体験活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史、風習、人物、自然、産業、方言について「ふるさとカルタ」を3年生が作成し、カルタ大会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間、社会科などの学習で、全学年とも地域に出かけたり、地域の方々にゲストティーチャーを迎えるなど、地域にふれあう機会を多く持つことができ、地域の方々から「よくあいさつをするようになった」という評価もいただいた。 ・地域の自然、人材を活用するためにも、人材バンクの更新と地域との窓口の一本化を図っていききたい。
	○読書指導 学校図書館教育	読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童の目標読書冊数を5800冊とする。 ・朝の読書タイムを充実させる。 	A	<p>具体的目標はすべて達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館に親しませるために「図書館祭り」を年2回開催した。 ・読書量を増やすために、読書月間を年2回設けた。 ・読書タイムで読む本の選定を前日に行い、学年に応じた目標冊数を決めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読み聞かせや児童や職員の「おすすめの本」の取組は、児童の読書意欲を高めることができた。 ・「家読」の取組にまで発展できるよう家庭への啓発を継続的に行っていききたい。
	○人権・同和教育	教育活動全体を通しての計画的、組織的な人権・同和教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動を通じた仲間作りを充実させる。 ・ものを大切にし、人を思いやる優しい心を育てる。 ・相手の立場を考え、みんなで助け合えるようにする。 	A	<p>今年度もいじめの発生はなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友だちのよいところ見つけ」を奨励し、お互い認め合い、協力し合う学年集団の育成を図ると共に自主性を伸ばした。 ・「心の花づくり」を推進し、優しさ、思いやりの心を育てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会で「みんながなかよくできるために」という話し合いがなされ、児童主体で目当てや目標に向けての具体的な取組がなされた。 ・「人権集会」への保護者の参加が大変少なかった。人権についての児童の取組の様子を知っていただくためにも、参加者を増やす工夫(期日・機会等)が必要である。
特定課題	●小学校低学年の学習環境改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの時刻を守らせる。(チャイム席) ・教師や友だちの話最後まで聞くことを徹底させる。 ・授業前に学習道具を準備することを徹底させる。 	A	<p>児童による自己評価の結果、具体的目標についてはA評価。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムの鳴り始めて行動させた。 ・話を聞く際の3つの約束事を徹底させた。 ・学習準備をしてから休み時間をとるように声をかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年当初に指導を徹底したことと全学年で取り組んでいることにより、本校の「約束」として浸透している。 ・授業中の姿勢については、指導を要する。
	●「オンラインワン」の体験事業	体験活動による郷土への理解と愛着の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験を題材に、郷土の素晴らしさを感じることができるような単元を作成する。 ・事後のアンケートで、理解と愛着心のポイントを1ポイント以上上げる。 	A	<p>全校児童、お世話になった方々、保護者や地域の方々を招いて「おもてなし会」(発表会)を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小豆作りを通して、生長過程の観察、世話、収穫の体験をさせた。 ・収穫した作物を使った加工品や料理作りを体験させることで、農業の素晴らしさを実感させた。 ・自分たちが体験したことを、校内及び保護者・地域等に積極的に情報発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者や地域の方々とふれあひながら「農業体験」「陶芸体験」「茶道体験」ができ、波多津の良さ、伊万里の良さ、日本の良さに気づくことができた。 ・「茶道体験」は、日本人としての礼儀やマナーを体を通して表すことができる。今後、いずれかの学年で取り組んでいくことを検討していききたい。
	◎家庭教育力の向上	望ましい生活・学習習慣の形成・確立	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の目安を設定し、全児童の達成率が70%以上になるようにする。 ・決められた時間までに、就寝、起床する児童を90%以上にする。 ・朝食をとってくる児童を100%にする。 	B	<p>「学習時間」「朝食」については、ほぼ目標数値を達成しているが、「就寝時刻」については、昨年度より遅くなっている。また、「テレビ・ゲームの時間」も長くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて、家庭学習の目安を設定し、学級懇談会や学級便り等で家庭に周知した。 ・「ぐんぐんノート」の中で「私の家庭学習時間」という項目を作成し、全児童に持たせた。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」を徹底させるため、保護者との連携を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期末に保護者向けの「生活・学習アンケート」が、望ましい生活習慣づくりの1つの啓発となった。 ・育友会とも連携して、「早寝」と「テレビ・ゲームの時間」については、具体的な数値目標を掲げて全家庭で取り組んでいく必要がある。
	◎特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな表現力の育成 ・自ら学ぶ力の育成 ・心に響く教育の推進 ・一輪車教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関連行事ごとの職員の反省アンケートにおいて「ほぼ達成できた」項目の回答率が90%以上にする。 	A	<p>具体的目標は達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢づくり」「確かな学力の定着」「たくましい心と体」を3本柱に据えた行事を計画した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成に伴い、学校行事の精選が課題。教育反省や保護者等の意見も参考にしながら、行事の再構築をしていききたい。



今年度重点的に計画し取り組んできたことは、職員・保護者・児童・地域へのアンケート結果からも概ね達成できたと思われる。

本校の特色である「一輪車教育」を柱に、地域に開かれた学校として教育活動を展開しており、このことは、保護者・地域からも高い評価を受けている。また、今年度は、「体験活動」を重視し、各学年が児童の実態等に応じた様々な体験活動を積極的に行った。これらの体験活動を通して、保護者や地域の方々とのふれあいができ、本校児童のコミュニケーション力の向上にもつながった。さらに、保護者や地域等に対しての情報発信(月2回以上の学校だよりの校区内全世帯への配布、学校ホームページのほぼ毎日の更新、花まる連絡帳の有効活用、町内行事への参加等)が昨年度以上にできたことにより、学校の具体的取組内容を啓発し、保護者の理解・協力を得ることができたものと思われる。

学校内では、職員間の報告・連絡・相談の徹底を常に心がけたこと、職員一人一人が“教えるプロ”としての自覚と熱意を持って教育活動に取り組んでいったこと、そしてそれを支える温かい職員集団であったことが、今年度の本校教育への高い評価につながる要因の一つではないかと思う。



7 来年度の改善策

本校の特色である「一輪車教育」を柱に、子どもたちがたくましく健やかに成長していけるような教育活動を進めていきたい。

来年度から始まる教育課程編成に伴う対策・対応も考慮に入れ、今年度以上に教師集団が一致団結し、児童一人一人を大切にする教育を進めていきたい。また、地域の自然や人材を活用した体験活動の充実により、子どもたちにコミュニケーション力を含む「生きる力」をつけさせる取組を今年度以上に進めていきたい。そして、学校の思いや児童や職員が校訓どおり精いっぱい取り組んでいる様子等を、具体的に機会あるごとにお便り等で紹介し、これからも、“保護者・地域に信頼され愛される魅力ある学校づくり”を推進していきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目